大正八年三月七日第三種郵便物認可 昭和十五年九月二十七日 磐城時報 （金曜日） 第七千八百九十八號 【一】

夕刊
磐城時報
廿六日發行
福島縣平市紺屋町十四 編輯兼發行印刷人 岡田弘成
福島縣平市紺屋町十四 印刷所 磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

青史に殘る英魂 論功行賞に輝く勇士 石城地方關係者五十七名

東亞新秩序建設の礎石となつて散華した支那事變死歿者の第二十一回論功行賞は二十六日發表されたが、內石城地方關係者は次の五十七名で、英魂への余榮に遺族の感激も又新なるものがあらう

瑞八 步一 三森三郎 內郷村
功七 旭八 工上 高橋勇作 飯野村
旭八 鐵道局技師 木田武 好間村
瑞八 首藤敬助 泉村
旭七 輜上 久野春美 內郷村
同 輜二 柴田捨吉 川部村
旭八 工上 小野寅吉 小名濱
功七 旭八 步上 折笠忠雄 三坂村
同 正木吉年 錦町
功七 旭八 衞上 新井正三 四倉町
同 步上 上遠野正義 泉村
同 竹森良雄 上遠野
全 安濟金彌 平市立町
全 赤津二郎 勿來町
全 泉田章 泉村
全 大和田猛 夏井村
全 櫛田千代一 上遠野
全 赤津勝太郎 勿來町
全 佐藤武雄 小名濱
全 磯上孝治 磐崎村
全 馬目浩 飯野村
全 宗像義昭 永戶村
全 渡邊昇 內郷村
全 富岡幸治 草野村
同 志賀三平 川前村
同 永井罌 錦村
同 松本利美 湯本町
同 櫛田五郎 上遠野
同 衞上 黑川藤平 江名町
功七 旭七 步伍 鈴木卓 小名濱
功七 旭八 步上 樋口武雄 內郷村
同 奧津卯吉 平市
同 鈴木惣太郎 四倉町
全 數馬高男 湯本町
全 竹並一 湯本町
全 蛭田雄藏 川部村
全 步伍 青木喜一郎 草野村
全 步上 松崎房吉 大浦村
旭八 輜上 蛭田早苗 田人村
全 新妻又平 赤井村
全 輜一 山崎政雄 內郷村
功七 旭八 工上 柳內重明 小名濱
旭八 工伍 岡部三郎 泉村
功七 旭八 步上 小野利重 平市
全 菊地勝好 小名濱
全 根本淸一 勿來町
全 砲伍 鮫島弘道 平市
全 步上 曲山永七 泉村
全 步伍 佐藤源春 內郷村
全 步上 大金義雄 湯本町
全 堀越周四郎 小名濱
全 步伍 榊原乘松 四倉町
全 步上 波多野一二三 永戶村
全 若松勝義 飯野村
同 鈴木精 高久村
功六 旭七 火曹 中野喜平 平市
旭七 步一 子田忠治 澤渡村
功七 旭八 步上 高崎正夫 平

警防後援會寄附のポンプ一台到着 二十九日水勢試驗

平警防團後援會では既報の如く平市警防團消防部に自動車ポンプ一臺と同親子ポンプ一臺を購入寄附し消防部の强化をはかることになり東京市日本機械會社に注文中であつたが出來上り二十八日到着するので消防部では二十九日性能試驗を行ふ事になつた

婦人團指導

縣では銃後農村婦人團体の活動を指導促進されるため今度經濟更生婦人團体特別指導村を定めたが地方では山田村が指定された旨この程通知あり、同村婦人團体の今後の活躍が期待される

同村國防、愛婦兩婦人會は會長安島としさん（元代議士安島重三郎夫人）統率の下に出征軍人家族の洗濯、裁縫等の奉仕は勿論昨年七月〃愛國貯蓄會〃をつくり三ケ年計畫で三万圓の貯金運動を起し、また玄米持寄會を組織し昨秋三十六俵の玄米をあつめ手輕に活動資金をつくる等他町村の目標となつてゐる

㊇
釜屋商店
電九・九九番

橋本知事等臨席し 回春園改築 地鎭祭 工費十六万八千圓

豐間村縣立回春園の改築工事は十五、六年度事業として十六萬八千圓で着工される事になり二十九日午前九時橋本知事、高橋警察部長、味岡衛生課長等臨席の上地鎭祭を行ふ

好間運動會

好間小學校の秋季陸上運動會は十月十五日同校々庭で擧行

平署員異動 ○○○○○

平司法主任警部補 渡邊健藏
喜多方署次席へ
平經濟主任同 作田淸
中央警官講習所へ
平經濟次席巡査部長 瀨戶太兵衞
任警部補、平經濟主任
經濟保安課警部補 中澤卿
平司法主任
平情報部長 佐藤雅之助
平經濟次席
保安課巡査部長 長岡文七
平情報部長
小野新町署會計 小椋勇誠
平署會計

平管內防空指導員 あす辭令を交付 公會堂に四百名參集

平署では二十五日管內警防團幹部を平市公會堂に集め防空演習に關する訓示をなしたが、二十七日午前十時からは同所に管內防空指導員四百名を集め縣警防課長久和警部から辭令を傳達した後防空關係法令並に指導要項について講習會を開く

兩警部補出發

平署司法主任から喜多方署次席に榮轉した渡邊警部補は二十九日午前十一時十分磐越線、中央警官講習所入りの作田警部補は二十八日午前九時常磐線で出發する

慰問袋發送

四倉町役場にては戰線に活躍してゐる勇士に對し慰問袋を發送するので各區長に托し慰問袋の作製を急いでゐる

古山氏寄附

平市長橋町居住三瓶電機社員古山和道氏は最近母堂を喪つたが、時局に鑑みて隣組の請ひを容れ常會の申合せに基いて悔返しを廢し葬儀を簡略にした結果節約の剩余金卅圓を平市銃後奉公會に寄附した

松茸出廻る 目下百割

地方松茸の産地として知られてゐる大野村白岩を中心として松茸が出始めたが、本年は例年より約十日程早く、量も豐富で走りは目下百割と云ふ高格を呼んでゐる

平驛の成績

平驛今九月上中旬の貨物成績は左記の如く一般荷の動きに變りはないが、特殊荷が概して近距離のために兩旬收入一万五千二百八圓は前年の一万三千二百八十三圓に比して千九百廿五圓の增收に過ぎざるも下旬荷には名産石城梨があるので相當の收入を見込まれてゐる、今年の梨の出荷は上旬八トン二車、中旬卅四車（昨年は上旬一車、中旬廿五車）で遠きは函館へ三車、秋田へ九車、その他は東京方面への移出であつて、昨年は十月の終りまでに百六十六車（九月八六車、十月八十車）に達したが今年は平市平窪梨が大當りで（好間方面は夏季の降雹被害のため減收）荷造り資材の配給が圓滑であれば二百車を超えるものと見られ、此の收入のみでも六千圓以上に及ぶものと云はれてゐる

▼上旬 發送二一五七（一五七四）五八三增、到着五〇六九（三四三三）一五三六增、收入六五一五圓（六三四〇）一七五圓增

▼中旬 發送二五八二（一七六七）六一九增、到着四六三五（三五八四）一〇五一增、收入八六九三圓（六九四三）一七五〇圓增

精動通信

尺貫法を存續せしめよ メートル法は天下の惡法

岸田日出男

私はメートル法には絕對反對であるが、メートル制には反對しない。ところが世の中にはメートル法といふ法律とメートル制といふ單位制を區別せぬ人が多い。即ちメートル法といふ法律　メートル制といふ單位システムとをゴツチヤにしてゐるのである。

メートル法は法律の力で日本の度量衡の單位をメートル制で統一してしまひ、日本で古くから使はれてきた尺貫單位制を禁じてしまうという秦の始皇以上暴法である。私はさういふ亂暴な法律の制定に反對する。併し何もメートル制即ちメートリツク、システムといふ度量衡の單位制そのものに少しも反對しない。このところを篤と考へねばならぬ平たく言へば昔から使はれてきた尺貫單位制を法律で禁じてもらひたくない。尺貫制を存續させたい爲にメートル法といふ暴法の制定に極力反對する、併しメートル單位制まで驅逐しやうのではない。

早い話が洋服は便利だ。だからといつて法律の力で和服を禁ずるといふ亂暴な法があらうか。和服がそんなに不便で不經濟のものなら、自然に時の經過の裡に消滅しされてしまうだらう。尺貫制にしても同じことで、尺貫法がそんなに不合理で不便で不經濟のものなら自然に消えてなくなる時が來る筈だ、何も不自然極まる法律の力で消滅させてしまうのがよいとは思はれない。

萬が一メートル專用法が强調されたら古今東西隨一の惡法であらう。それは法律を亂用するものであり、法律の神聖を冐瀆するの甚だしいものである。メートル制と尺貫法の混用はいけない併用とすべきだといふ論もあるが、メートル專用法といふ天下の惡法さへ出來なければ、それで私は滿足する。メートル制も行はれやう。尺貫制も行はれやう。それでよい。何んとしても尺貫單位制を法律の力で滅ぼしたくない。さうしてメートル法は自然の理に反し、人間性を沒却し、更に國土と傳統を無視した古今の暴法であるといふ認識は、いくら考へても少しも變らない。メートル制やよし而もメートル法は絕對に惡い『メートル制行はれてよし、而も尺貫法を存續せしめよ。メートル法は天下の惡法である』と叫びたい。

御料理
〃むぎとろ〃
さつき
平市紅小路 電四八八

大和田耳鼻咽喉專門醫院
電話一七〇番

尊き南洋の史蹟

日露戰爭の後に『一人死んだと言ふてはならぬ二人なくした方もある』と謠はれたのは人も知る軍神乃木將軍へのあこがれてあつた。いま同じ筆法を移して東亞共榮圏の本舞臺たる南洋にその昔身命を捧げ給ひし高貴の御方の御事蹟を錄して、海外發展には危險もあらう身命をも惜しむべきでなき心構への資と致したい。

平城天皇の第二皇子高岳親皇は大同四年皇太子の位に立ち給ふたが後故ありて廢され給ひ、夫れより十三年の後弘仁十三年に至り四品に叙せられ給ひ、幾ばくもなく落飾して佛門に歸し眞如と號し東寺に入りて密敎を空海に受け遂に阿〇梨の位を得たまふた。世に之を眞如法親皇と申す。それより十四年を經て勅により平城の地に地所四十余町を賜はりしも擧げて之を不退寺、超昇寺に寄進せられ承和四年子俗宗叡を伴ひ入唐して法を求め給ふこと二十年。しかし當時は中宗廢佛の後にして佛法また衰微せるにより寧ろ天竺に入り親しく釋尊の靈跡を探らんと欲して渡航の官符を得られたのが我が貞觀八年正月七日、親王の御年時に八十余歲、求法の御尊志のほど只々驚嘆し奉るの外ない。

斯くて廣洲を發して遙かに天竺に向はれたのであるが爾來杳く消息を絕つこと實に十有五年我が元慶五年に至り在唐の我が留學僧中〇より上申あり親王は渡印の途中羅越國にて薨ぜられた由を報じて來た、その上申書に曰く『高岳親王甍且を過ぎ流沙を渡らんと欲して風閘するに羅越國に到り逆旅遷化し給ふ』とあり、和漢合運には『羅越國に到り虎害に遇ふ』とあり。金枝玉葉の御身を以て單身求法の旅に上り虎に食はれ給ひしとの飛報一たび到るや流石に我が朝野を擧げて異常なる衝激に打たれしめたのであつた。

その後、親王御終焉の地が何處であるかについては學者によりいろいろと研究されて來たのである、が流沙とは砂漠のことであらうとの說もあり史家の間に區々の學說もあつたが、先年京都帝大桑原敎授が發表した研究の結果、羅越國とは今の馬來半島であるとなし、今その地に記念碑建立の議さへ起つてゐる、今や南洋の新天地は東亞共榮圏の活舞臺として大きく登場して來たのであるが、瘴煙蠻雨の未開の天地を拓く爲めに數々の危險もあらう困難もあらうが、日東帝國發展のためには捨身奉公の捨石的覺悟が先決である。當年八十余歲にして敢然天竺の險難に向ひ給ひし眞如法親王の鐵石の御尊志を思へば吾々は神國の爲め更に一段の發奮を期しなければならない。

㊂洋服高島屋
電話三八六番

ホシチヤコール錠
消化整腸
星製藥株式會社

ハマーチ
專賣特許
美味しいビタミンのゼリー
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
德用罐 五、〇〇
特約店 平市五丁目 山野邊藥局

附設『洋裁科』生徒募集

◎要旨 本校ハ時代ノ要求ニ應ジ別ニ洋裁科ヲ設置シ洋裁專門學校出身新進ノ敎員ガコレガ指導ニ任ジテ居リマス
◎入學資格 小學校以上ノ學力ガアレバ年齡ノ制限ナクドナタデモ入學出來マス
◎修業年限 修業期間ハ{前期六ケ月 後期六ケ月}デス
◎募集人員 凡三十名
◎學期始 十月一日（但シ隨時入學モ差支アリマセン）
◎其他 裁斷學、裁縫等總テ、個人敎授ヲ旨トシ且ツ各種材料等極力經濟的ニ立案シテアリマス、ミシン其他ノ使用料一切不要

詳細ハ本校ニ就テ問合セ下サイ

文部大臣認可　平市田町　藤田女學校　電話三二八番

完壁の防空は
先づ我等の手で
燈火管制用
クレツプ『黑幕紙』チリメン紙の御利用を

本クレツプ紙は强靱無比、布に比し價格低廉なる事、內面は吹雪模樣、縞模樣等にて体裁優美にして而も遮光萬点事務に、作業に、家庭に是非御覽の上御利用下さい
町村團体、警防團等の大量御購入の節は特に御相談申上ます

代理店 三國屋印刷所
市內發賣店
スガノヤ提灯店
いづみや玩具店
本田製本店
紺屋町 富岡商店
大町 半谷商店
湯本町 岡田園茶舖

內科外科
エッキス光線
產婦人科
院長 安齋徹
平市田町 安齋醫院（電話四五七番）
入院隨意

とんかつ專門の店
御ひいきをお願致します
午前十一時より午後十一時まで
平市仲田町 かの家
電話四六五番
（出前迅速）

國策線上ノ改良品
鑄物の代用品生る
セメント製マンホール 金二五〇錢ゟ各種
同 風窓網 金五十五錢ゟ各種
平市南町二〇
發賣元 野內商會
電話一一一番
燒土管 在庫豐富

耳鼻咽喉科
醫學博士 增田之
平市紺屋町（電六五一）

附屬產院 新設
姙產婦入院隨時
產科 婦人科 木村病院
平市新川町
電話一六四番